

令和3年度青森市自動車運送事業運営審議会 会議概要

- 【日 時】 令和3年11月8日（月） 13：30～14：35
- 【場 所】 青森市福祉増進センター（しあわせプラザ）3階 大会議室
- 【出席者】 井上隆会長、柳谷章二副会長、葛西房子委員、千葉敏彦委員、中田靖人委員、平岡弘志委員、山本武朝委員
- 【欠席者】 中村美津緒委員
- 【事務局】 鈴木公営企業管理者、赤坂部長、今次長、堀川課長、嘉瀬主幹、菅原主幹、渡邊主幹、三浦主幹、山口主幹、亀田営業所長
- 【会議次第】
- 1 委嘱状交付式
 - （1）委嘱状交付
 - （2）公営企業管理者企業局長挨拶
 - 2 組織会
 - （1）委員紹介
 - （2）会長選出 ⇒ 互選により井上隆委員を選出
 - 副会長選出 ⇒ 互選により柳谷章二委員を選出
 - 3 会議
 - （1）経営状況について

会議概要

（1）経営状況について

資料に基づき事務局より説明。

<意見・質疑応答>

（委員）

地域連携ICカード『AOPASS』の導入により、利用者の利便性が向上し、少しでも利用者の増加につながれば良いと思っている。

（委員）

人件費抑制のため退職者不補充が続いているが、将来的には正職員の採用をしていくべきだと考えている。

（委員）

車両の更新について、新車の購入と比べ中古車両を購入することは、どういう効果があるのか。

(事務局)

ノンステップバス等のバリアフリー対応車両の導入は毎年の車両更新により進めている。中古車両は新車よりも安く購入でき、その分購入台数を多くすることにより、バリアフリー対応車両の導入を大きく進めることができるものと考えている。今後、費用対効果も含め、経営戦略の中で検証しながら進めていくということにしているところ。

(委員)

燃料の高騰が続いた場合、経営にどのような影響を与えるか。また、来年度以降の対策はあるのか。

(事務局)

委員のご指摘のとおり、経営に大きく影響すると考えている。来年度以降の対策については、一交通事業者としての対策は限られるが、車両・施設等で色々な省エネの対応を行いながら、影響を最小限にとどめられればと考えている。

(委員)

この『AOPASS』導入により、区間ごとの遅延状況が仔細に調べられるものになっているか。

(事務局)

今のシステムで、所要時間はある程度把握しており、丁度とはいかないものの、所要時間の改善が大きく見られている状況にある。

また、新たな取組として、バスロケーションシステムの導入を考えており、家に居ながら、自分のスマホでバスがどれくらい遅延しているのか、家を出る前にしっかりわかるということと、その運行情報がGPSでその場所が時間も含めて把握することができ、より緻密なデータを入手することになるので、それを踏まえて、バスダイヤに反映したいと考えている。

(委員)

バス停で待たなくても、そうした遅延状況がスマホで見ることができれば、非常によろしいと思い、期待している。

遅延状況について、是非、実態を細かく分析し、その原因究明をお願いしたい。

(委員)

市営バスと市バスとの違いを確認したい。

(事務局)

市バスというのは、昔は市営バスの路線であったが、その一部を市が直接行政サービスとして運用する形態に変わったのが、市バスであり、市内では、矢田方面、荒川方面、浪岡方面などが市バスとして運行されている。

(委員)

経営戦略の中に記載のある「運賃制度などの検討」とは、主として値上げについての検討となるのか。

(事務局)

値上げの検討ということだけではなく、様々な運賃制度がある中で青森の交通にどれが一番適しているかを色々検討するという意味である。